

(一社)天竜建設業協会 浜松市天竜区二俣町鹿島491-5 ☎(053)926-1562 FAX(053)925-6468
電子メールアドレス jimuty@tenkenkyo.net ホームページ <http://www.tenkenkyo.net/>
編集・発行 広報委員会 題字 長谷川智彦



CONTENTS

特集 天竜の建設業と天竜の ブランド化について	2
ちょっとおすすめグルメ／協会ニュース	4
建設ギャラリー／かんとくさん／最近のキーワード	5
やじろべえ／コーヒーブレイク	6

水窪町大野地区の一本桜と茶畑

一本桜は、弘化2年(1845年)の植樹と言われ、今では水窪町の桜の名所と
なって、花見の季節には市内外から多くの人で賑わいます。

特集 天竜の建設業と天竜のブランド化について

■はじめに

令和三年九月十五日の会報「てんりゅう」で「天竜の地域ブランド化について」の特集を組んでいただきました。

西部農林事務所天竜農林局では、その後、広報委員会が中心になって、天竜のブランド化に向けて、「山のお茶飲み比べ」イベントを実施したり、広報委員会としてインスタグラムに天竜の魅力の情報を投稿するなど様々な取組を進めてきました。

（一社）天竜建設業協会においても、天竜材PRのロゴマークマガネットステッカー「天の竜が育てた木」を工事車両等へ掲示していただき、天竜材のPRに努めていただきましたこと、大変感謝しております。

天竜のブランド化は、前回の特集以後、天竜商工会、天竜区観光協会、県グリーン・ツーリズム協会北遠支部、管内の森林・林業関係団体、JA遠州中央、天竜浜名湖鉄道（株）、天竜高等学校等の団体の協力を得て、少しづつ前進し

ているところです。今回は、これらの団体と意見交換の場として設けた「サロン・ザ・天竜」について紹介するとともに、建設業が天竜のブランド化に向けて果たす役割等についてまとめました。

■「サロン・ザ・天竜の開催」

天竜のブランド化に向けては、県や市など行政だけが頑張っても限界があります。天竜地域の団体や天竜に住む皆さん、さらには天竜と関係のある周辺の方々や団体等の協力が不可欠です。

みんなで情報発信し、みんなで天竜を盛り上げていこうと取り組むことで、天竜のブランド化が実現します。

そこで、天竜を盛り上げるために日頃から様々な取組を進めている団体に一堂に会してもらい連携できる場所は連携していこうというところで、意見交換会「サロン・ザ・天竜」（参加団体は、表1のとおり）を開催しました。

表1 サロン・ザ・天竜メンバー

	団 体 名
1	静岡県グリーン・ツーリズム協会北遠支部
2	県立天竜高等学校
3	遠州中央農業協同組合
4	天竜区観光協会
5	一般社団法人 天竜建設業協会
6	天竜商工会
7	天竜浜名湖鉄道（株）
8	天竜林業振興協議会
9	天竜材水平連携協議会
10	静岡新聞社天竜支局 天竜支局長 垣内 健吾
11	中日新聞天竜通信部 南 拡大朗
12	浜松市天竜区役所（まちづくり推進課）
13	静岡県西部農林事務所天竜農林局（天竜農林局広報員会）

写真①



サロン・ザ・天竜（令和4年3月24日開催）

「サロン・ザ・天竜」では、何か会議において統一した取組を進めるといいうのではなく、それぞれの団体が、今やっていることについて紹介していただき、連携できるところは連携していこうというようなスタンスで進めました。

また、静岡新聞と中日新聞のこの地域の担当記者の方にも参加していただき、情報発信の方法などについてアドバイスをいただきました。

当日、意見交換では、来年放送予定のNHK大河ドラマ「どうする家康」に期待する声や天竜浜名湖鉄道との関連で、「いかに天浜線より奥にお客を呼び込めるか課題になる」、「世界お茶まつり」と連動したPRや市が委嘱する「山里いきいき応援隊」との協力をさらに進める必要があるなどの意見がでました。

会議は、終始和やかに進み、引き続き連携していけるところは連携し天竜を盛り上げていこうということで一致しました。

「サロン・ザ・天竜」は、次回以降の開催も検討するとともに、浜松市の都市部に住む人たちや団体など天竜周辺の人たちも巻き込んで、みんなで天竜を盛り上げていければ良いと思います。

■天竜の建設業と天竜のブランド化

今回の「サロン・ザ・天竜」は、(一社)天竜建設業協会は都合が悪く欠席となりましたが、天竜のブランド化を進めていく上では、天竜の建設業が果たす役割は非常に大きいと感じております。

建設業は、天竜農林局の関係では、治山工事や林道工事などで関わりがありますが、治山工事では、地域の安全・安心を守るだけでなく、森林を復元して環境面においても大いに貢献しています。(写真②)過去に山が崩壊した現場も今では立派な森林へと復元しています。林道工事では、森林整備や木材生産に必要な道の整備を進めることで、この地域の適正な森林管理、林業振興につながっています。(写真③)

他にも住民の生活や産業に必要な道路の整備、様々な公共施設の建設などこの地域の社会・経済・環境の分野において、なくてはならない施設や環境の整備に関わっています。このようなことから、天竜の魅力の創造、天竜のブランド化と天竜の建設業は密接に関係しており、天竜のブランド化に向けて建設業、(一社)天竜建設業協会の果たす役割は大きいと考えます。

写真②



天竜区龍山町瀬尻 ハサカ山治山工事
昭和63年治山(緊急)、平成元年治山(復旧)工事

みごとに復旧した34年後の森林
(令和4年4月8日撮影)

現在、当時植栽した広葉樹が大きくなり、森林に復旧している。
建設業が地域の安全・安心、森林づくりに貢献

なり、ものやお金が循環し、地域全体が潤うようになります。多くの人が交流することで、地域が様々な刺激を受け、新しいものが創造されるなど地域が活性化します。

また、農林業が元気になるれば、農地、林地が適正に管理され、災害の未然防止、軽減にもつながります。

ブランド化の効果は様々なところにおよび地域全体が元気になることで、若い人たちも集まり、天竜が持続可能な地域となります。

天竜の建設業に携わる方たちには、地域の人たちと密接に連携して生活を支える基盤の整備、維持にご尽力いただくとともに、新たな魅力の創造に力を貸していただけだと思います。

これからも天竜のブランド化に向けて中心的役割を果たしていただけることを期待します。

写真③



林道 大尾大日山線 (天竜区春野町)



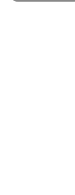
問い合わせ先
西部農林事務所天竜農林局
森林整備課 053-926-2314

ホームページ

<http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-780/index.html>

ちよこ

おすすめグルメ



◆ホームラン軒◆

広報委員 福田 匠

今回ご紹介するグルメのお店は、天竜区二俣町にある地元で人気のラーメン店「ホームラン軒」さんです。

こちらのお店は、有形文化財にも登録されている天竜浜名湖鉄道・天竜二俣駅構内にあり、とても重みのある造りとなっております。



ホームラン軒さんのメニューは、大きく分けて醤油・塩・味噌・とんこの4つから選ぶことができます。私は、「チャーシューワンタン



- 営業時間 11時～14時・17時～19時30分
- 定休日 月曜日
- 座席数 30席

メン（醤油）をいただきました。味は？といいますが、醤油はコクが強い感じが最高です。そして、チャーシューは分厚く、ワンタンはプルプルですごく柔らかく、麺は縮れの入った中細麺といつていいでしょう。スープの調和もよくツルツといけました。皆様にも、ご満足いただける味わいのボリューム満点のラーメンです。

是非、天竜にお越しの際には、天竜浜名湖鉄道・天竜二俣駅構内にいるラーメン店「ホームラン軒」さんに立ち寄ってみていただきたいと思います。

協会ニュース

令和3年度臨時総会を開催

令和4年3月25日臨時総会を開催しました。令和4年度の事業計画案や収支予算案等が審議され可決されました。

長谷川会長はあいさつの中で、「地震は国内各地で発生しているが、今年に入って3月16日にマグニチュード7.3の福島沖地震が発生した。その前の1月22日には南海トラフ地震震源域内の宮崎沖でマグニチュード6.6の地震が発生している。この震源域内でマグニチュード6.8以上の地震は南海トラフ地震臨時情報が発令されることになっており、注意報はいつ出てもおかしくない状況となっている。このため、日頃から地震対策の備えの見直し等をしっかりとやっておく必要がある。また、県内初となる家畜伝染病の豚熱が袋井管内で発生しているのでこちらの対応も必要となってきた。

要望活動については、県協会主催の交通安全講習会の自主警備については、利用実績が上がるよう指定路線以外で昼間交通量



3,000台以上の道路が対象に加えられたことや浜松・静岡市両政令市の旧管理道路（国道・県道）も対象に加えるなどの適用拡大が認められた。また、当協会から浜松市に要望していた現場代理人の県工事との兼務が認められるなど成果があった。令和4年度もコロナ禍の中ではあるが、要望活動や行政機関等の意見交換会に会員の声を届け、協会の各委員会を活用し、地域の安全・安心をしっかりと守っていきたい。」と話されました。

建設ギャラリー

工事名称 令和2年度治山（復旧）田沢（神子川）
（元繰越）工事
施工期間 令和2年6月29日～令和3年3月26日
発注者 静岡県西部農林事務所
施工者 株式会社 西村組
工事概要 No.1谷止工 1基
No.2谷止工 1基

当現場の沢上流部に山腹崩壊があり、巨大転石が沢を塞ぎ、土石流警戒センサーが設置され警戒されていました。谷止工を2基設置する工事であり、課題は巨大転石の除去と急峻な地形での搬入路の設置でした。

当初仮設道路が設計されていましたが、下部に集落があり落石の危険があるため、沢の左岸にバックホウ能力限界の急峻な進入路を設置しました。

また、索道架設も不可能であり、資材はモノレール運搬にしました。

転石は固くブレーカーでは容易に割れず、静的破碎剤を併用しましたが、相当な日数を要したため、3月末の工期内完成は厳しいものがありました。

このため、木製残存型枠工法では無理が生じ、鋼製型枠に変更して、工期内完成ができました。



着手前
NO.2谷止工 下流～上流



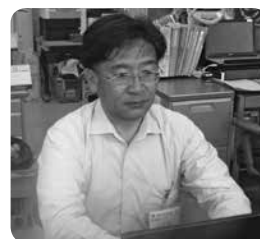
完成
NO.2谷止工 下流～上流

近年は豪雨による土砂災害、風水害が頻発しています。この地域は地質的にも災害が起こりやすく、災害時には建設業者の方々に協力いただき、ありがたく思っています。

まだまだ経験不足ではありますが、地域の方々が安心して暮らしていけるために日々精進し業務に努めていきたいと思いますので、今後ともよろしく願います。

ここに配属されるまでは天竜区には行ったことがなかったので地理感覚がなく、道路工事や治山の経験もありませんでしたので、仕事も地理もわからないことが多く非常に苦労しました。

平成31年4月から龍山協働センター地域振興グループに配属となりました。私は主に林道の工事発注・監督、維持修繕工事、災害復旧工事を担当しています。その他、農道の現場対応、水道の工事発注、維持管理なども担当し、多岐に渡る業務を行っております。



浜松市 龍山協働センター
地域振興グループ

藤田 善行

かんとくさん

日本のインフラ投資はすでに曲がり角に入っており、新規よりも維持管理・更新のための投資を叫ぶ声が少なくない。今後次々と耐用年数を経過するインフラ施設にどう向き合っていくか―住民生活に直結するだけに避けては通れない課題である。

昨年10月、和歌山市の水管橋の一部が崩落し約6万世帯に影響を及ぼした。水道インフラの老朽化が改めて浮き彫りになった。

戦後の高度成長期以降、急速に整備が進んだ日本のインフラ施設は、水道に限らず耐用年数の目安となる建設後50年を経過する施設が加速度的に増加していく。国土交通省によると、建設後50年以上の施設は2033年に道路橋で6割、トンネルで4割、下水管渠で2割を超えるという。

再発防止に向け崩落メカニズムの究明を進める和歌山市の水管橋崩落事故調査委員会は、吊り材の腐食から破断、落下の仕組みとともに維持管理体制の在り方にも言及。事前の点検で吊り材の状態が的確に把握できていれば、予防保全により崩落を防ぐことができたと考えた。国交省は予防保全型の点検に転換すれば、事後保全型と比べて維持管理コストを3割削減できると試算する。

最近のキーワード
「これからの
インフラ維持管理」

西村組に入社し、27年になります。その間、子育てをしながら勤務してきました。このような環境作りに協力してくださった会社、そして家族の支えがあったからこそ続けてこられたと感謝しています。

先日、息子が20歳の誕生日を迎えました。まだ学生ですが、子育てが一段落しホッとしてい



藤原奈々

るところです。高齢化が進んでいくこれからは、子育てだけではなく、介護にも理解と協力が必要になってくると思います。

私は海が好きです。以前、家族で石垣島・西表島などの島に行きました。その時シュノーケルをし、たくさんの小魚の群れに遭遇しました。その光景はとても綺麗で、今でも忘れられません。普段の生活から離れ、違った景色を見て気分転換することも大事だと感じました。

ここ2年はどこにも行けなかったのも、コロナが落ち着いたら、まだ行っていない沖縄の島々に行ってみたいです。また、時間に余裕ができてきたので、新しい事にもチャレンジしたいです。

今年も鮎釣りの時期がやってくる。私の町も例年通りの釣り人でにぎわうだろう。

田舎暮らしは不便ではあるが、自然に囲まれ、感じながら、地に足ついた生活ができるのが良いところだと思う。天然ウナギの復活までは思われないが、せめて都会の子が来たとき楽しく遊べる川くらいは取り戻したいと願わずにいられない。



N・M

「鮎」

れる。私は釣り人ではないが幼少のころから川遊びが好きで、小学校の帰り道、わざわざ川の浅瀬を通ったりしたこともあった。ウグイ、コブナ、ドジョウなどがそこらこらにいて、それが楽しかった。

しかし、近年それらが激減した。放流するアユやアブラハヤ等を見るが、その他の魚はめっきり減った。原因は様々と思うし、わからないことも多いと思う。が、川遊びは楽しくなくなった。

未来のまちづくりや、建設業の役割を画像・動画で伝えるサイト

『人と建設と未来ラボ』 オープン！

建設専門紙を発行する株式会社建通新聞社（本社：東京都港区、代表取締役社長：片方賢也）は、未来のまちづくりや建設業の果たす役割を動画や画像などで伝えるサイト『人と建設と未来ラボ』をオープンしました。「未来って、建設現場でつくるんだ」をテーマに、全国各地の注目プロジェクトをピックアップ。建設現場に導入されている最新のテクノロジーや災害時に建設業が活躍する様子もご覧いただけます。「人と建設と未来ラボ」は処遇改善、担い手確保といった課題に向き合う建設業の未来を応援していきます。コンテンツは、次代を担う中学生、高校生に分かりやすい内容としました。また、サイト作成に当たっては自治体や建設企業、建設関連団体をはじめとする皆さまにご協力いただきました。当社では当サイトのオープンを皮切りに、若年層に対する教育啓発事業をさらに展開していく予定です。会員企業様のホームページにリンクを貼っていただき、普及・啓蒙にご協力をお願いします。

【人と建設と未来ラボ】

<https://mirai.kentsu.co.jp>



【お問い合わせ先】
株式会社建通新聞社
「人と建設と未来ラボ」運営事務局
TEL 03-5425-2070
または 株式会社建通新聞社
浜松支局
TEL 053-453-0908 まで

国が作った退職金制度、建退共に参加しませんか

福祉の増進と企業の振興のための建設業の退職金制度です

建設工事の第一線で働く優秀な人材確保にも寄与！

建退共の掛金が電子申請で納付可能になりました！

- 加入できる事業主
建設業を営む事業主
- 対象となる労働者
建設業の現場で働く方
- 掛金は
一日 320円

- ◎法律に基づき運営される国が作った制度
- ◎建退共加入は「経営事項審査」で加点評価
- ◎国からの財政上の支援
(国の助成により掛金の一部が免除)

- ◎掛金は全額非課税
(損金または必要経費に算入できます)
- ◎複数の企業間を就業しても通算して退職金を支給
- ◎加入の手続きは簡単



建退共静岡県支部

〒420-0851 静岡市葵区黒金町11-7-12階
TEL 054-255-6846

建退共本部のホームページを
ぜひ、ごらん下さい

建退共

検索